



大学院通い

金子柱憲 (52)

プロゴルファー



タッチする癖
がなかなか抜
けず、「Aのキ

りも、そういったトーナメントを実現すべく頑張るように、とハッパをかけられました。その時、自分の方向性がハッキリしましたね。

大先輩の青木功さんにイ

ンタビューしたり、ゴルフ

場会員の方々にアンケート

調査したり、賞金ランク上

位のプロゴルファーに、ジ

ュニアやアマと一緒にプレ

ーすることについて、どう

思うかと調査したり……。

そうやってバズルのピース

を1つずつ埋めていきまし

た。嬉しかったのは、プロ

ゴルファーやゴルフ場会員

への調査で、回答率が非常

に高かったこと。配ったア

ンケート用紙を先方でコピ

ーし、それ以上に回答して

た。

大学院は無事、12年3月

に卒業できました。近い将

来、僕の考えるトーナメン

ト実現のため、体だけでは

なく脳みそにも汗をかく日

々です。

パワポは今やお手のもの



50歳を目前に、自分の将来を見据え、キャリア・アップしたいという気持ちで、家族以外には受験するプレイヤーとしての経験を活かし、ゴルフをスポーツ・ビジネスの面から捉えてみたいと思ったんです。

で、探してみたら、早稲田大学大学院のスポーツ科学研究科に行き当たりました。小論文の書き方などを

学ぶため、予備校へ週に3度通って、何とか合格できました。まず合格することはないと思っていましたから、家族以外には受験することを伝えていなかったんですよ。

そして2011年4月、

平田竹男研究室(社会人修士課程)での1年が始まりました。

最初に先生から「パワポ(パワーポイント)で自己紹介してください。持ち時間は15分」と指示があったんです。パソコンは不得手というかあまり触ったことがなく、「パワポって何だ?」という状態。近所のパソコン教室でイチから教わりました。拙い発表に違いなかったと思いますが、先生から「持ち時間を守ったのは金子さんだけ」と言われたのを記憶しています。

今でも、人差し指でキー

一般の大学院なら2年かけてやることを、ここでは1年で消化するため、学業はハードでした。登校は週5日。これまで「座りっぱなし」に慣れていなかった

ので、腰と背中にかなり負担がかかりました。

1年の後半は、論文執筆

のために多くの時間を割く

ことになりました。テーマは

「日本における新たなゴルフ・トーナメントの提案」。

ジュニアとアマがプロと一緒に試合できるツアー・トーナメントがあってもいい

のでは……そう考えたのが

きつかけです。ジュニアにと

ってプロと一緒に回る経験

はとても大きい。他のメ

ジャー・スポーツではほぼ、

そういう機会はありません。

先生からは論文そのものよ

TEMPO

マイオンリー